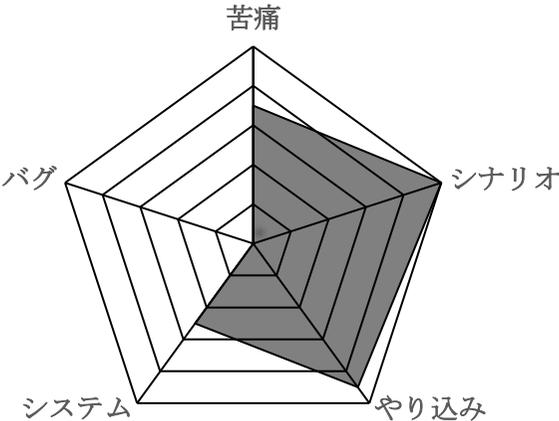


厄 友情談義	PS(1996)
 <p>※点数が高いほど評価が低いことを示す。</p>	5800 円 (税抜)
	サウンドノベルアドベンチャー
	クソゲー界の老舗、アイディアファクトリーが初期に発売したホラー系ノベルゲーム。PSstore のアーカイブスで DL 販売も (何故か) されており、「あなたの神経を逆撫でする危険な作品です」との宣伝文がある。実際そのとおりである。

文責：皇帝

「このゲームの謎は解けたかい？」 → 「謎？そんなものはないよ」

ゲームは小学校の同級生 5 人がタイムカプセルを掘り出すため、深夜の学校に集まる場所から始まる。裕一という男子は他の 4 人にいじめられた過去を持ち、この機に復讐を試みるという話だ。5 人それぞれの視点でシナリオがあり、5 人分を順番に読んでいくことになる。話の展開としては、連絡のつかなくなった裕一（実は校舎内で待ち伏せている）を探すために 4 人が捜索しに行くのだが、この中で大量の伏線が張られる。古びた金庫、教室にいた謎の美容師見習い、1 年前に学校で起こったというある事件……。また途中、裕一によって 2 人が気絶させられると特殊メイクと称した謎の手術が行われ、一人は豚の姿に、もう一人は裕一の言いなりののっぺらぼうに変わってしまう。この時点で意味がわからないのだが、おかしいことに元の姿の 2 人が縄で縛られた姿がすぐ後に画面に写り込んでいる。じゃああの豚とのっぺらぼうはなんなのか。ちゃんと 2 人の意思を持って歩いていたはずなのだが。裕一からは、「人形にお前たちの名前をつけて遊んでいただけ」との説明がなされるが、説明になっていない。こうした謎が謎を呼ぶ展開で、シナリオは雑ながらも意味盛り上がっていく。裕一以外の 4 人を読み終えた次点ではこれらの謎は全く解決しておらず、いずれのルートも「終？」と意味深な言葉で終わっている。これは裕一ルートで全てが明らかになるのだろう、と誰もが思うはずだ。ところが、5 人目の裕一のシナリオに入ると、彼は妙なことを言い始める。「今まで君の見てきたエンディングはただの偽り。全くの大嘘」ん？ どういうことだ？ 不穏な気配を全身に感じながらも読み進めると、最後に主人公に、「タイムカプセルに入れた僕の願いごとはなんだった？」と問うてくる。ここで「みんな倒す」、「みんな呪う」、「みんなごめんね」、「みんなウソ」など 7 つの選択肢が提示される。さもどれか一つが正解のような顔をしているが、実際にはどの選択肢を選んでもゲームオーバーになり、